

科目名	中小企業と事業承継 Advancement & succession in SMEs		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・火・3 限	秋・火・6 限	-	-
担当教員名	里見 泰啓	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施） ※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>漸進的革新を積み重ねながら事業を維持発展させる中小企業が存在する。この講義では機械工業の分業システムのなかで生きる中小企業を中心に具体例を取り上げ、中小企業の実像を明らかにしていく。中小企業のあり様は経営者の姿勢により左右される。中小企業経営者の維持発展への意思の形成要因にも焦点を当て中小企業の発展、事業承継の原動力は何かを明らかにする。</p> <p>そのうえで、成熟経済の下で事業の維持発展に努める中小企業の企業行動が持つ意味を探る。</p> <p><到達目標></p> <p>経済発展における中小企業の役割、中小企業とその経営者の実像を理解すること。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>中間及び期末に受講生のレポートをもとに討議する。</p>				
<p><講義計画></p> <p>1 回目： 中小企業とは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：この講義の視点、ねらいを説明する。 <p>2 回目： 中小企業本質論①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：なぜ、中小企業が政策や研究の対象なのか、その理由を探る。 <p>3 回目： 中小企業本質論②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：機械工業の分業システムのなかで生きる中小企業の特徴を明らかにする。 <p>4 回目： 中小企業に対する認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：問題性のある存在とする見解から貢献的な存在とする見解への変遷を概観する。 <p>5 回目： 中小企業の貢献①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：機械工業の分業システムのなかでの中小企業の貢献を具体例からみる。 <p>6 回目： 中小企業の貢献②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：機械工業の分業システムのなかでの中小企業の貢献を具体例からみる。 <p>7 回目： 中間まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：ここまでの講義をもとに経済発展における中小企業の役割を討議する。 <p>8 回目： 企業家論からみた中小企業①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：経済発展の動因となる企業家機能について解説する。 <p>9 回目： 企業家論からみた中小企業②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：中小企業経営者が果たす企業家機能を具体例をみながら探る。 <p>10 回目： 中小企業経営者の労働観、事業観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：中小企業経営者の企業家精神の源となる労働観と事業観を探る。 <p>11 回目： 中小企業経営者の事業経営に関する価値観と規範</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：事業の維持発展への意思の背景にある事業経営に対する価値観と規範を探る。 				

12 回目： 中小企業の事業承継①

・要点：中小企業経営者が事業を承継し、維持発展に努める背景について具体例から考える。

13 回目： 中小企業の事業承継②

・要点中小企業経営者が事業を承継し、維持発展に努める背景について具体例から考える。

14 回目： 中小企業と事業承継についての討議

・要点：受講生のレポートを中心に中小企業の役割、経営者の行動などについて討議する。

15 回目： 中小企業と事業承継についての討議とまとめ

・要点：受講生のレポートを中心に中小企業の役割、経営者の行動などについて討議し、成熟経済の下での中小企業の企業行動が持つ意義を探りまとめとする。

<講義の進め方>

- ・講義は、Teams 等に掲載する講義資料を中心に進める。
- ・レポートをもとに受講生とのディスカッションを重視する回がある。
- ・受講生の興味、理解に応じて、若干、講義計画を変更する場合がある。

<事前事後学修内容>

講義ノートを中心に必要に応じて参考文献を用いて予習・復習をする。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。

<教科書及び教材>

教科書は特に指定しない。講義ノートを配布する。

<参考書>

- 鶴飼信一編著『日本社会に生きる中小企業』中央経済（2018）
- 植田浩史 桑原武志他『中小企業・ベンチャー企業論ーグローバルと地域のはざままでー』有斐閣（2014）
- 植田浩史『現代日本の中小企業』岩波書店（2004）
- 小林靖雄 瀧沢菊太郎編著『中小企業とは何か』有斐閣（1996）
- 関 満博『日本の中小企業』中公新書（2017）

<成績評価方法>

欠席6回以上は成績評価しない。
原則中間レポート（40%）と期末レポート（60%）で評価する。

<課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法>

Teams 等にて全体に対するフィードバックを行う。

<履修条件> 特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

火曜5限

<その他>

講義資料、参考文献の他、中小企業への関心に応じて文献などを参照してもよい。